

「闇の子供たち」座談会（報告）

日時：10月21日（火）19：00～21：00

場所：沖縄国際センター にらいホール

主催：沖縄ベトナム奨学会沖縄委員会×沖縄 NGO 活動推進協議会

講師：高里鈴代（元那覇市議、長年、女性や子どもの人権問題などに関わっている）

内容：さまざまな波紋を広げている映画『闇の子供たち』。東南アジアにおける「幼児売買春」「人身売買」等、根深い問題に切り込んでいます。この映画から私たちは何を学ぶのか、深い衝撃や悲しみとともに、いろんな想いが生まれてくると思います。1970年代から日本人の「買春ツアー」などの問題に取り組んできた高里さんのお話を聞きながら、映画を見て感じたことなど、参加者同士の意見交換も行いました。



スケジュール

19:00～20:15 お話：高里鈴代さん

20:15～21:00 小グループに分かれて自由討論

議事録

高里さんのお話：

- ・ 売春か買春か

買春（かいしゅん）という言葉が生まれたのは、それほど古いことではなく、1970年代から1980年ごろのことです。朝日新聞の松井やよりさんが、アジアでの日本人のセックスツアーの横行ぶりを前にして、「この状況は『売春』という言葉ではとても表現できない」という思いで、「買春」という造語を考え出しました。

- ・ 日本人男性のアジアへのセックスツアー

日本の高度経済成長に伴って、1960年代終わりごろから日本人が次第に海外に出て行くようになりました。ちょうど同じ頃、ベトナム戦争をきっかけに、アジア各地で米兵相手の歓楽街やセックス産業が急成長していました。そこが日本人男性の買春の受け皿となっていました。

- ・ 1970年頃のキーセンツアーについて

1970年代には、企業ぐるみのセックスツアーが公然と行われました。ビジネスマンが成績をあげた報償として、会社から買春付きのフィリピン旅行がプレゼントされる、といった具合でした。働きずくめの男性社員に対して、馬の鼻先ににんじんをぶら下げてさらに



仕事に駆り立てるような仕組みがあったわけです。当時は、沖縄●でも旅行社が公然と「キーセンツアー」と銘打ち、売買春ツアーで集客していました。

- ・ 買春ツアーに対する批判

1977年、台湾の旅行会社の社長が、日本の旅行業の業界紙に、『『恥』という字をご存じですか?』という意見広告を出しました。台湾に来る日本人男性がセックスばかりを求めていることに対する痛烈な批判でした。東南アジア各地でも、日本人の買春ツアーに対する批判が強まっていきました。

このような批判を受けて、社会党（当時）の土井たか子さんから多くの人の努力によって1982年に旅行業法が改正され、旅行業者が買春を斡旋することが禁止されました。

- ・ 買春ツアーの変化

買春ツアーに対する国内外の批判を受けて、法整備が少しずつ進んできましたが、法の目をくぐる形でより巧妙な方法で買春が行われるようになってきました。また、エイズの蔓延をきっかけにして、より低年齢の子どもたちが買春の対象として求められるようになりました。バイヤーたちは、エイズ感染の危険を避けるには、長く性産業に従事してきた女性ではなく、セックスキャリアの少ない低年齢の子どもを相手にしたほうがよい、と考えたのです。

- ・ 日本の法的整備について

1999年に「児童買春・ポルノ等禁止法」が成立して、日本人が海外で子ども買春を行うことが違法とされるようになりました。しかし実際には、子ども買春はより巧妙化し、広がる気配さえあります。インターネットの普及によって、子ども買春についての情報も広がっています。

また、日本が他国と比較して、子どもポルノに甘いという強い批判があります。日本で売られているポルノ雑誌には、アジアの子どもたちのヌード写真や時にはレイプ写真の掲載される例があります。日本社会ではびこっているポルノ文化やアジア蔑視が、アジアの子どもたちを犠牲にしているのです。

また、以前は日本人男性が海外へ買春ツアーに出ていたのですが、次第に、国内で海外の女性たちを相手に買春ができるようになっていきます。日本は、人身売買の一大受け入れ国としても強く批判されています。

- ・ セックス産業を取り巻くアジアの現状および加害国の日本に問われること

セックス産業に子どもたちを送り出しているのは経済的に貧しかったり、紛争や差別を抱えている地域です。子どもをだまして連れ出し、難民キャンプから拉致してしまうなど、手口はより悪質になっています。このような地域に対する啓発活動および経済自立を促す支援も重要ですが、より根本的なことは、日本のような加害国の法整備と意識改革です。需要があり、経済格差がある以上、供給しようという動きはなくなりません。現状をより広く知らせ、今後加害者を生み出さないようなしっかりした人権教育を行うことが重要だと思います。

会場の方々同士の話し合いの様子



Q：高里さんはこのような問題に気づき、歩いていく中で、嫌になったり、やめようと思ったりすることはないですか？

A：辛くなること、落ち込むことがあります。ただ、そうした時に出会いが必ずあるような気がしています。お互いの近況を話す中で何かいつもヒントをもらっています。あと、こういう場所に来て一緒に考えてくれる仲間がいると感じられるので、また小さなことから一つひとつやってみよう、そう感じています。

Q：1980年代ごろまで、ヤンバルの方へいくと、「孔雀あります」という看板を目にした。後になってそれは中国等の方々の方々の売春宿という噂を聞いた。それはほんとうか？

A：話は聞いたことはありますが、それが実際どうだったか私は知りません。沖縄の戦前ではいわゆる辻遊郭には、沖縄の各地からの女性、しかも未成年も売られていました。十数年前にあったことですが、未成年の子どもが数十万円で売春の店に引き渡されていた事実もあります。

参加者コメント（要約）

※（ ）かっこ内の数字は複数回答者の数字です。

・とても具体的で、身近な話を聞かせてもらいました。また、とてもショックでしたが現実なんだ一っと思えました。お金でモノを買う感覚で女・子供を買っていて、それがあたりまえになって、日本という国に対して今まで以上に知らなかった一っと思えました。

・私の周りにも買春ツアーに行く人たちがたくさんいました。子供の買春とは別だと思っ
ていましたが、買春という行為について改めて考えました。日本人である自分が、どう関わっていけばいいのか、これからもいっぱい考えます。

・売買春について年代により変わっていた様子など具体的にお話があり非常に良く理解できた（5）

・ダイレクトに入ってきました。迷っただけいないで、一足が次につながるよう、始めてみようと思えました。

・人身買春がどのように移っていったかを丁寧に話して頂きよかった。ただ、海外だけで

起きていると思いがちなので日本の現状を話した方がよかったと思う。

・今年の夏休みに、学校の先生方と一緒にミャンマーとタイに行きました。物乞いをする子供達を見てとても衝撃を受けました。帰ってきていろんな事を考えました。考えた結果、とても難しくて分からない、というのが私の結論でした。今回の講演に来て高里さんの考えを聞け、もっといろんな角度から考えられるようになりたいと感じました。

・改めて、問題の深刻さにおどろきました。日本がむかしから加害国になっている現状がなさけなく思います。ただ、私自身は、売春そのものを根絶するのは不可能だと思います。まずは子供たちからどうにか救いの手を差しのべていくべきだと思います。

・映画では、外人さんが売春しているところが多かったのに、実は日本人が多いことがとてもショックだった。売春の現状など、なぜ子供などかその理由を知って、幼い子供は何の抵抗も出来ず、大人にやられてしまう。どうすれば子供たちが笑顔になれるだろうって考えさせられました。

・60, 70, 80年代の日本の買春旅行の状況から、今にいたるまでの状況がどうゆうものかということ把握できたが、今はアジアから女性がつれてこられるという風が変わっている。という状況はあるが、なぜなくなるのかという疑問に対して、もっと知りたい。

・自分の知らなかった、映画を観るだけではわからなかった児童売春の話がきけて勉強になった。自分の質問、悩みにも答えてもらえてよかった。

・映画を見て、もうどうして良いか分からなかった気持ちを、この映画を見た人たちの意見や感想を聞くことで自分の中でもう少し考えたいと思い参加したが、やはり事実はとても悪で、大きい問題で、自分一人は小さいと思った。しかし、同じ世界の中で、しかも自分よりも幼い子供がこんな目に合っていると思うと、そのままいるわけにはいかない。

・違法なのになんで日本中、または世界中に広まるのか、その理由がほんの一部かもしれないけど、理解できた気がする。買春がビジネス、社会の人間関係・いろんなことに関わっていることが分かった。

・体験や、日本の男性の性に対するゆがみがあった事を知るきっかけになった。途上国を搾取する先進国という構造が未だにあるということをおぼろげに感じていた。

・ちょっと前までは日本人がアジアの国々で買春していたという事実にとまどいました。売春する側も買春する側も、一見しっかりと見える大人たち（教師、医師、警察など）ということに驚いたし、誰を信じたらいいかわからない気持ちにもなりました。しかし、闇の世界の話が明るい場所で聞けて良かったと思います。

・映画を見て、すごくもやもやしてた部分があったのですが、いろいろ現実で起きていることを知り、自分が知らないことの多さを知ることができ、知らないことの恐ろしさを感じました。こういった身近な話が聞けるといって、この身近さも恐ろしかったです。でも現実を知るとは本当に大事だし、それを伝えることも大事だと鈴代さんの講演を聞いて思いました。

・実際に鈴代さんが経験されたことなどを、聞くことが出来てアジアの買春・売春の現実をさらに知るきっかけとなれて良かったです。また日本人がここまで身近に買春ツアーがありそういったお店に行って女性を買う。現実に自分の住んでいるこの沖縄にも存在するという事実を実感しました。

・あいまいな情報をうやむやに受ける事が多い“闇の部分”を実際に見ている高里さんのお話はとても重いのですが、受けとめる事は大切な事だとも思いました。ありがとうございました。

・とても貴重で心にひびく話でした。

・鈴代さんのフィリピンでの実体験など直接聞くことができよかったです。売春の歴史はあんなに古いことが分かって驚きました。売春を完全になくすことは、難しいかもしれないけど、まず自分から周りの人々に現状を伝え、男性の意識改革にもつとめたいです！！

・映画を見た後になんでこんなことが起こるんだろう、どうにかしてほしいと思っていました。人身売買や売春に日本人、ビジネスが深く関わっていることも知ることができた。そして、それは沖縄でも同じように起きていた。

・また、ずっとこの問題に関心を持ち、活動を続けてこられた高里さんをととてもすごいと思います。私も、自分にできることをやっていこうと思います。

・初めて知ることが多くて、衝撃的でした。でも、学校でも教えてくれないことなので、とてもためになる時間でした。知ったからと言って、今日・明日、何かが変わるわけではないし、もしかしたら自己満足なのかもしれませんが、今後も私なりに考えていきたいと思いました。

・この座談会で聞いた話、読んだ資料、たいへんおどろきの事実でした。明日から何をどう行動するかっていうのは具体的には、ないですが、まず身近な人、自分の子供達、家族に接するときに、意識を持って何か伝えられるかもって思います。どうもありがとうございました。

・「伝える」ことより、「一緒に考える」ことの大切さを感じました。」この言葉が、とてもひびきました。

・「豊かさ」心の豊かさというキーワードが出て来ました。一部の日本人の心は豊かではないために、金で物（者）を買う。「伝える」という行動を今後も続けて行って下さい。

・買春の背景、歴史を「時系列」で教えていただいて、よくわかりました。

・最後の10分しか聞けませんでした。その中で、アニメ等が（暴力的な描写）買春につながるものがショックでした。大人として、それを止められないこと・・・でも、実は身近に解決策がある！！ことを感じた。

・売買春ツアーが1960年代からあったとは知りませんでした。それが日本社会でまかり通っていたこと、皆がそれになれていたことは本当に怖いと思った。“経済の力”ですべて成り立っているこの世の中をどうにかして変えていきたい。

・映画だけのノンフィクションだけではなく私たちの身近な問題というのがわかった。鈴代さんの話で、600名も入るホテルに300名もエンターティナーの女の人たちがいたことは、幼児虐待の問題だけではなくて、性をお金で買う人たちがいることを近くに感じた。

③本日の座談会を通して感じたことをご自由にお書きください（内容について、映画と座談会という仕組みについて）

・映画を見てとてもショックでし、はっきりいって無力になり、この感情をどうすればいいのかって感じていたので、このシェア会はずごく助けになりました。高里さんも述べて

いたように、1人ではただ、無力になりがちなので、「つながり」をもてる場としてとてもよかったです。

・映画と本を読み、頭のなかでずっと混沌とし、考えていました。鈴代さんが続けている理由を知り、このもやもや、悩みもいいのかないかと思いました。何かできること、どうしたらいいか、色々考えていきたいと思えます。

・若い人が多くて色々感想が聞けたが、結局どうすればよいかわからなかった。日本人はセックスアニマルといわれているが、現実には韓国の人と同じ状態になっていると聞く。経済力の問題か？倫理の問題か？

・個人的な感心で来ている人が多く、NGOや現場で活動している人が居たので現実に近い話を聞いた。ただ、国境を越えた問題であるし、貧困メカニズム等規模が大きいのでODAやUNの活動にも触れてみたかった。

・ほかの人がどういう思い、考えなのか知る事ができてとてもありがたいと思えました。まだ頭の中がもんもんとしていますが、もっといろんな現実を知りたいと思えました。

・映画を見終わってから、「自分に何ができるだろう」と考えつづけ、今日の座談会で答えがみつかるか期待していました。とりあえず、自分が加害者にならない、自分の身近の人も加害者にさせない、そして考えつづけることが大事だと分かりました。

・いろんな人と意見を共有できてよかったです。実際にタイに行つての買春があたりまえだった話などきいて、人を売買するのはあたりまえではないだろって思ったし、なぜ女性や子供たちが被害を受けるのか？がとてもショックだし男の人ありえないと思った。

・あまり話しあわれないセンシティブな問題であり、それを話しあい、考える人が一人でも増えるということは、とても意味のあることだと思う。高里さんが言うように、一度知つてしまうと、そのことは必ず頭に残つていて、すぐではなくてもなにかやろう！と思う人が現れるかもしれない。それを考えても、こうゆう場を設けたことは意味があつたと思えます。

・グループで話した時に、とても参考になる意見をきけてよかったです。映画をみて、なにかもやもやした気持ちだったので、今回のような座談会があつてとてもよかったです。

・観光業界に興味があつたが日本にそんな旅行が堂々と組み込まれてたことがあつたと聞いて、おどろいた。相手の国の人の人権を侵害しない旅行。今はつくつていけているのか気になる。調べたいと思った。

・金で買う男と買われる女という状況が昔から残つている現実。男社会だった日本。発展の中でゆがんだ物がさらけ出された感じがした。

・映画や原作を見た方たちと意見を交換できて良かったです。このモヤモヤを、いろんな人と共有できて、この機会をありがたく思います（3）

・こういうお互いの意見を交換する場は本当に大切だなと感じました。同じ意見をもつていて共感できたり、また違う視点からの意見も聞くことが出来て、とてもいい場だつたと思えます。

・この様な奥の深い問題に対しどの様な取り組みをしていくべきかの具体的な意見をもつと聞きたかったです。

・感じている事をたくさんの方とお話出来る機会を作つて頂けてありがとうございます

た。一個人では無力ですが、何かスタートできたらと思います。

- ・もう少しグループワークの時間があればよかったかもしれません。

- ・映画に関しての座談会というよりは、鈴代さんのお話を聞いている感じでした。でも、それが逆によかったです。

- ・「自分に何ができるのか」「自分が幸せならそれでいいのか」「それは自己満足じゃないのか」など、いろいろ考えてしまっていたけど、鈴代さんも同じなんだとわかって、少しでも自分ができの事を見つけられたらいいと思いました。

- ・どうすればなくなるのか、何が原因なのかを話し合えて良かったです。見るだけではなく、こういう今日みたいなみんなでも共有し合える場が必要だと思います。人身売買・買春には経済の力や権力そして、アジアの女性への差別など、背景があった。すごく大きいけど、自分には何ができるのか考える機会になった。

- ・“座談会”というコトバと実際の内容にギャップがあつてびっくりしましたが、自身の考えを述べる場、色んな人の考えを聴ける場になってとても良かったです。映画を観たあと動けなかった。あの衝撃を何か形のあるものに変えていけそうです。企画、ありがとうございました。

- ・目を背けずにそのことについて話し合えるよう、又伝えられるよう自分の感受性を磨く努力をしていきたいと思いました。

- ・性のあり方について、すごく考えました。性産業がすさまじい勢いで展開している日本に生まれ育っている日本人として、この問題と向き合っていかななくては、と思いました。

- ・臓器売買についてももっと知りたかった。自分でできるだけ調べてみようと思います。

- ・今日の座談会、参加して本当によかったです。得たものが大きくて、まとまらなくて…書けなくてすみません。

- ・大学生の方々も真剣に考えていたのでとても嬉しかったです。

- ・いろいろな方々の感想、考え方を聞けて、よかった。共感する事も多く、映画をみて、しょげていた気持ちが少し元気になりました。ありがとう。

- ・Good！！人がいっぱいいておどろいた！！

- ・今まで知らなかったことが多すぎたということ、そして知ってしまった為に余計苦しい想いになってしまった、という複雑な心境です。でも鈴代さんがおっしゃっていたように、“知ったからには何かしたい”という想いをもって何か行動に移していけたらと思います。

- ・子供に性の対象が移った理由が、エイズにかかりたくないという理由というのにも、ひどいと思った。やっぱり自分を守るために、相手を傷つけていた。自分中心に考えるのをやめてほしいと思う。